

## 令和4年度 第1回遠野市上下水道事業審議会 会議録

- **日時** 令和4年10月6日（木） 午前10時から正午まで
- **場所** 遠野市役所本庁舎3階 大会議室
- **出席者**
  - 1 多田市長（職員紹介後退席）
  - 2 委員（出席：9名全員）  
菊池明敏、新田玲子、山蔭和子、松田克之、菊池宏、千葉孝造、立花恒、菊池正、伊賀浩人
  - 3 事務局  
奥寺環境整備部長、石田上下水道課長、細川課長補佐兼下水道係長、鈴木副主幹兼経営係長、佐藤上水道係長、福田主査、菊池主任、鈴木主任
- **会議次第**
  - 1 開会
  - 2 辞令交付
  - 3 市長あいさつ
  - 4 審議会委員及び職員の紹介
  - 5 議事
    - (1) 会長及び副会長の互選について
    - (2) 審議会の運営に関する事項について
  - 6 概要説明
    - (1) 遠野市水道事業の概要について
    - (2) 遠野市下水道事業の概要について
  - 7 事務連絡
  - 8 閉会

### 1 開会

### 2 辞令交付

多田市長から委員に辞令書を交付し、任期は令和4年10月6日から令和6年3月31日まで。

### 3 市長あいさつ

水道及び下水道事業は、地方公営企業法により経営の収入をもって運営していかなければならないが、人口減少により料金収入が減少することが予想される。また、整備した施設や設備の老朽化が進行し、修繕及び更新を考える必要がある。このような課題に対し、委員の皆様と情報を共有し、ご意見をいただきながら今後の計画や経営に役立てていきたい。

### 4 審議会委員及び職員の紹介

### 5 議事

#### (1) 会長及び副会長の互選について

委員から事務局に一任されたため、会長に「菊池明敏委員」、副会長に「立花恒委員」を提案し、満場一致で承認された。

#### (2) 審議会の運営に関する事項について

事務局から、遠野市上下水道事業審議会条例に基づき、同審議会の概要について説明した。なお、以下の事項について、事務局案のとおり承認された。

### ① 会議の開催時間について

会議は、原則として平日の午前 10 時又は午後 1 時 30 分から開催することとし、1 回の会議時間は概ね 2 時間とすることとした。

### ② 会議の公開・非公開について

会議は原則公開とすることとした。

ただし、審議事項に非公開とすべき案件が含まれていると認められるときは、公開しないことができることとした。

### ③ 会議録の作成について

会議録は、自由で活発な議論を行うことを目的に、発言者は「委員」とし、委員の発言部分は個人名を記載せず、発言内容も要約して記載する「要点記載方式（要約版）」により作成することとした。

なお、作成した会議録は、後日委員全員から確認を得た上で、市ホームページに掲載することとした。

## 6 概要説明

### (1) 遠野市水道事業の概要について

事務局から、遠野市水道事業の概要について説明した。

<質疑応答>

#### 【老朽管について】

委員： 水道事業の有収率が 77.2%となっており、22.8%が漏水及び不明水となっている。

また、雨が降ると水道の水が濁る時があるので、老朽管更新について説明してほしい。

事務局： 管路の耐用年数は 40 年。管路経年化率では、令和 2 年度は 31.19%となっている。

昭和 50 年代に布設された管路が更新時期を迎えているが、一斉更新は難しいため、漏水が多発する所や耐震性に弱い所を重点的に更新していく計画を立てている。

事務局： 現在の管路更新の考え方として、基幹管路（避難所等に繋がっている重要な管路）の中で、古いものを重点的に更新する計画で進んでいる。ただし、漏水が頻発した地区については前倒しで更新している。耐用年数を超えているため、計画的かつ実情に合わせて更新している状況である。令和 4 年度では、新町（合庁前）、附馬牛町（上柳地区）、上郷町（細越地区）の更新を進めている。

会長： 水が濁ることについて、水道には水質基準があるので、状況がはっきりしないのであれば、調査していただいて、原因を把握してもらいたい。

全国的にも給水人口は減少しており、逆に世帯数が増加しているが、遠野市は人口も世帯数も減少しており、厳しい状況であると言える。有収率が 77.2%ということで、岩手県内でも遠野市は低い。この数値だけで、管がかなり古くなっていることがわかる。今後、老朽管の更新費用は高くなる一方、人口減少により収入は減り続ける。その状況が、遠野市は全国より少し早く到来している。

#### 【広域化について】

委員： 広域連携の広域化の範囲等について聞きたい。

事務局： 岩手県主導で県南広域ブロック検討会として、中部、西和賀町、金ケ崎町、平泉町、奥州市、一関市で構成されている。県では、できることから経費削減していく考えで、システムの共同発注など、まずはランニングコストを減らしていければいいので

はないかという流れになっている。

会 長： 国は広域連携を中心に考えている。その中で大きな課題は、技術者の確保である。通常、市町村職員は3年程度で異動となり、技術が継承されていかない。全国でも広域連携の先駆けである岩手中部水道企業団では、職員は水道技術専門のプロパー職員であるので、技術の集積が可能となっている。

委 員： 管路が繋がっていなくても、経営面のみの広域化や統合も可能なのか。

会 長： 経営統合のみも可能。施設のダウンサイジングの面でのメリットは無いが、技術職員の確保は可能になる。

#### 【水道料金について】

委 員： 遠野市は水道料金が低い。管路が繋がっていなくても経営統合が可能なのであれば、料金を抑えるように経営統合を積極的に考えるべきではないか。今後料金の値上げが必要となる説明があったが、そこを何とか最小限に抑えることを考える必要があるのではないか。

会 長： 遠野市の管路は長く、そこに張り付く人口密度は低いため、水道料金が高くなる。そういう地形の所に水道を引いている。全国的にも実力で安い所はほぼない。人口密集、効率が良い所であれば安くなるところもあるが、首長の政治的判断で恣意的に安くしてきているものが大半で、安いところが事業体として立派に成り立っているわけではない。

#### (2) 遠野市下水道事業の概要について

事務局から、遠野市下水道事業の概要について説明した。

<質疑応答>

なし

#### 7 事務連絡

当審議会は、令和4年度に3回、令和5年度に4回の開催を予定している。第2回審議会は、12月頃に水道及び下水道施設の見学を予定している。

#### 8 閉会